

救護棟カルテ No. 18



今年も夏鳥たちの搬入が続き、たくさんの鳥たちがセンターへやってきました。亡くなる個体もいましたが、無事に秋の渡りに間に合い、仲間たちの元へ放せる個体も多く、一安心の晩夏でした。

まだまだあります！管理員の仕事

各種イベントで、私たち野生動物管理員が普段どのような仕事をしているかをご紹介します。興味を持ってご覧いただき、いつもありがとうございます。

私たち管理員は、県民の皆さんの一時保護や通報により搬入された病気や怪我をした野生動物を、獣医師とともに治療しています。その動物の状態や回復の程度、種類や習性に合わせたリハビリを行い、少しでも早く野生へ帰することができるような看護をしています。イベントなどでもご紹介していますが、治療・リハビリのやり方に決まった形はありません。

警戒心の強い野生動物が様々な状態で搬入されるので、看護の仕方や方法について試行錯誤しています。

野生動物には、ヒトの生活圏に近いところで生息する種類と、遠く離れたところで生息する種類があります。また、日中に活動する昼行性動物と夜間活動する夜行性動物もいます。いずれにしても、ほとんどの動物がヒトに見られたり触られたりすることをとても恐れ、大きなストレスを感じます。そのため、私たちは必要最低限の接触で世話をしていますが、ヒトの目があるうちは怯えたり威嚇したりして、本来の様子を観察できません。そこで監視カメラを用いて、動物の行動を継続的に記録し観察するモニタリングを行います。

カルガモのリハビリの様子



24時間通して記録されるため、役に立つ情報がとても多くあります。どこでどんな姿勢で過ごしているのか、どのように餌を探して食べているのか、野生で生きていくための能力は回復しているのかなどが確認できます。変化があれば獣医師に相談したり、リハビリ空間を変更しています。カメラの設置には工夫と経験が必要で高さや位置を調整し、できる限りストレスを感じさせないようにしています。

足の腱を損傷していたので、プールで泳がせてリハビリをします。無事放鳥できました！

普段個体の状態を観察するために記録する映像の中に、緊張して身を縮こまらせる動物が、人間が離れている間、まったくとくつろいでいる様子を捉えられることもあります。その映像の一部を、切り取ってご紹介します。

南相馬市で保護されたニホンリス



めったに保護されないので、私たちも勉強になりました。

南相馬市で保護。脳しんとうを起こしフラついていましたが、数日後ケージ内を暴れまわるほど回復。放獣しました。

幼獣のホンダタヌキ



私たちが帰った夜間の様子。成獣でもヒトの気配がしないときは、ダラッとしているようです。

私たち管理員しか見られなかった映像を SNS 配信することになりました。野生動物の意外な姿を皆さんにも見ていただきたいと思います。

うっかりフクロウの顛末記



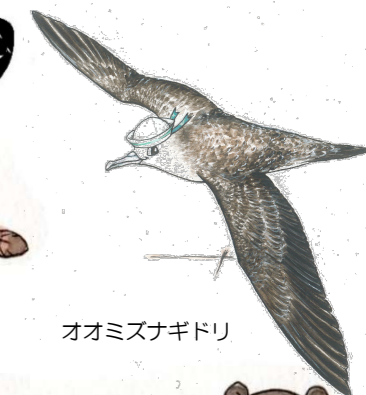
突然ひっくり返って！

ウワァ

そそそ…と、バツが悪そうに物かげへ



あだたら 森の回覧板



Vol. 18 秋号

オオミズナギドリ



【令和4年度 秋・冬の環境学習会を実施しました！】

10月2日（日）に秋・冬の環境学習会「ミツバチの生態やはちみつができる過程を学んで、持続可能な環境について考えよう！」を実施しました。体験を通じて自然環境について学ぶ環境学習会の中でも人気の企画です。ミツバチが私たちに与えてくれる恵みや、自然環境を守ることの大切さを学びました。

ミツバチは花のミツや花粉を食料としています。食料を集めるためにたくさんの花を訪れ、ミツバチの体には花粉が付着します。付着した花粉は別の花を訪れた際に受粉します。受粉した植物は種を作り次の世代に命を繋いでいくことができます。かの有名な物理学者アインシュタインは「ミツバチが絶滅したら4年で人類は滅びるであろう」と言いました。ミツバチの活動が自然環境をつくっていくことに大きく関わっていることが分かりますね。

講義の最後にはたくさんの質問がありました。参加した皆さんのミツバチや自然環境に対する関心が深まったことがうかがえました。私たち人間と人間以外の生きものが一緒に生きていくこと、「共生」を考えながら自然環境を守っていききたいですね。

環境学習会は来年度も開催を予定しています。センターHPで随時お知らせいたしますので楽しみにしてください。



図1 はちみつの上の蓋を取り除く様子



図2 遠心分離機で巣とはちみつを分ける様子

野生生物共生センターでは、野生動物のはく製やパネルの展示、映像放映等をおこなっており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。事前にご相談いただければ、団体でのご利用や職員による解説などの対応も可能ですので、興味をお持ちの方はお問い合わせください。
詳しくは... [HP](#) [環境創造センター](#) [検索](#)

発行: 福島県野生生物共生センター
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67
電話 0243-24-6631
開館時間 9:00~17:00
休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)



はく製を用いた 秋の「室内」探鳥会

令和4年11月1日(火)～12月11日(日)の期間、展示室内で行う探鳥会イベントを実施します。探鳥会といえば大自然の中バードウォッチングを行う自然観察会をイメージされると思いますが、天候に影響され、鳥を見ることができないこともあるでしょう。「室内」探鳥会では、お目当ての鳥(のはく製)を必ず見つけることができ、鳥の生態や特徴をその場で確認することができます。また、展示室内で双眼鏡の使い方から鳥の探し方までやさしくレクチャーしますので、ぜひご家族揃ってお楽しみください。



はく製が展示された展示室の様子

対象：誰でも参加できます
持ち物：双眼鏡(貸し出し可)

参加特典

探鳥会に参加すると...
鳥のしおりとバッジ
をプレゼント!



在来種、外来種をすくえ!!

今年も暑い夏でした・・・

少しでも涼を感じながら学ぶ企画として、水を張ったプールを利用した「在来種・外来種をすくえ!!」を外通路に設置しました。プールの中に在来種と外来種の写真パネルを入れ、すくったり釣ったりして、それがどういう生き物かを調べます。夏休み期間中から9月中旬までの期間限定でしたが、多くのご家族に体験していただきました。

「コーナー名は、在来種を救う、その為に外来種を掬う(すくい取る)をかけています。」と洒落をきかせた説明にクスクスと笑い声・・・大人には受けたようでした。

子どもはプールの水面に浮き沈みする獲物を見てワクワクしている様子(図1)。金魚すくいのポイや木の枝で作った釣り竿を使い、頑張ってすくい上げ「捕れたあー!」と歓声をあげていました。お父さんは、道具の使い方や釣り方をアドバイスして見守っていましたが、いつの間にか釣り竿を持って子どもよりも真剣に釣り上げていました。

釣った獲物は釣果シート(図2)に貼り付け、ホワイトボードに掲示した説明パネルをめくりながら調べていきます。親子共同で「これじゃない?」「いやこっちだよ」と楽しそうにシートを完成させていました。

在来種や外来種のことに関心を持ってもらえるきっかけとなったと思います。来年の夏もより充実した内容で実施しますので、皆様のご来館を心よりお待ちしております。



図1 イベント実施の様子



図2 釣果シート(ワークシート)

釣果シート			
すくった獲物はどれかな? 下の名前に貼ってみよう!			
在来種			
サワガニ	イワナ	ヤマメ	
カシカガエル		テン	
外来種			
ウチダザリガニ	ブラックバス		
ウシガエル	アメリカミンク		

野鳥の鳥インフルエンザ 2022-23 シーズンはどうなる?

ふと空を眺めると、遙か頭上をハクチョウの編隊が飛んでいく・・・今年も冬鳥が飛来する季節になり、様々な思いが駆け巡ります。

2021-22 シーズンも、冬鳥の渡りルートに沿って高病原性鳥インフルエンザウイルスが国内に持ち込まれました。しかし、野鳥の感染状況は例年とは異なる特徴がありました。5月の中旬まで、北海道から東北にかけてオジロワシ、オオワシ、クマタカ、トビ、ハシブトガラスの感染が認められたことです。いずれも衰弱や死亡した動物を食べる性質を持っている腐肉食性の強い鳥種です。

近年の流行株は、カモやハクチョウでは感染による発症がほとんどないと考えられています。病気や事故などで衰弱したカモやハクチョウを猛禽やカラスが食べたことによって感染し、発症により衰弱、死亡します。それを他の猛禽やカラスが食べ・・・と、次々に感染が広がったと考えられています。それらの死体を食したことが疑われるキツネやタヌキにも感染が認められました。幸いなことに、哺乳類で増殖する変異は認められませんでした。

2022-23 シーズンも冬鳥の渡りに合わせてウイルスが国内に持ち込まれる可能性は高く、「定着」も心配されています。カモ類だけでなくカモメ類も鳥インフルエンザの自然宿主と考えられており、海外では多くの感染事例が報告されています。昨シーズン同様あるいはそれ以上の感染が確認されるかもしれません。

(参考: 高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チームによる報告書、北海道大学迫田教授野生動物医学学会口頭発表)

お願い

- ① 同じ場所でたくさんの野鳥などが死んでいた場合、県や市町村にご連絡ください。
- ② 野鳥のフンが靴の裏や車のタイヤにつくことにより、鳥インフルエンザウイルスが他の地域に運ばれるおそれがあるので、野鳥がいる場所に近づきすぎないようにしてください。
- ③ 野生の鳥や動物に触ったときは、石けんを使って手を洗い、うがいをすれば、過度に心配する必要はありません。

野生生物共生センターの来館者が2万人を達成しました!

平成28年4月にオープンした野生生物共生センターですが、多くの皆様にご来館していただき、6年目の令和4年7月27日に累計来館者2万人を突破しました。記念すべき2万人目のお客様は、千葉市からお見えになったご家族でした。上檜治男環境創造センター所長より、県産ヒノキを活用した認定証と記念品の双眼鏡が贈呈されました。長女の璃子さんは、「知らない動物のはく製などがあって、新しい発見があった」と話していました。

令和2年は新型コロナウイルス感染症の影響で来館者が減少しました。令和3年からは徐々に回復し、令和4年は例年以上のお客様をお迎えしているところです。これからも私たちを取り巻く自然環境について理解を深めていただけるように、館内の展示更新や来館者参加型企画を実施して参ります。野生生物共生センターで皆様にお目に見られることを楽しみにしています。



野生生物共生センター来館者2万人記念セレモニー(令和4年7月27日)



公式ツイッターを始めました!

普段見ることができない、救護された野生動物の姿を皆さんへお伝えします!



- ユーザーID 「Fukushima_WSC」
- 2次元コード

